

2026 年度第 1 四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

Q1) 国際旅客事業のイールドについて、足元の動向と今後の見通しを教えてください。

A1) [第 1 四半期]

- ・ 第 1 四半期では、価格弾力性が高い需要へのアプローチによって早期ベースロードを固めつつ、適切に単価を上げながら直近のビジネス需要を獲得するなど、イールドマネジメントを徹底しました
- ・ この結果、燃油サーチャージを除いた第 1 四半期のイールドは前年及び計画を上回って推移しました。

[第 2 四半期]

- ・ 期初の計画よりも燃油市況が下落しているため、燃油サーチャージを含めた全体イールドは計画を下回る見通しです。
- ・ 一方、イールドマネジメントの精度向上により、燃油サーチャージを除いたイールドは前年を上回る見通しです。

Q2) 国際貨物事業の好調の要因を教えてください。また、この基調は継続する見通しですか。

- A2) ・ 需要面では、AI 関連の半導体などの高単価な需要が好調に推移しました。特にアジア発北米行の路線が力強い動きとなりました。
- ・ また、地政学的影響により、中東方面のマーケット全体の供給量が回復途上であり、航空貨物の需給が引き締まりました。その結果、単価が計画を上回り、全体の業績を牽引しました。
 - ・ 第 2 四半期以降は、第 1 四半期に比べて需給が緩和していくため、第 1 四半期ほどの単価の上振れは見込んでおりませんが、一定程度の上振れ基調は継続する見通しです。

Q3) 国内旅客事業の第 2 四半期以降の需要の見通しを教えてください。

- A3) ・ 足元の需要につきましては、大阪・関西万博の影響で好調だった前年同期の実績を下回る見込みです。
- ・ A320 の AOG 機が減少に向かっており需給適合を進めているため、生産量が前年同期を下回っていることも影響しています。
 - ・ お盆やシルバーウィークなどの多客期を中心に、販売施策を活用して需要を取り込みつつ、イールドマネジメントを向上することで全体の収益性につなげていきます。

Q4) 通期業績予想を据え置いた背景を教えてください。

- A4) ・ 第 1 四半期の実績は市況要因や国際旅客・貨物事業の好調により上振れましたが、現時点で通期予想を据え置いた主な理由は、市況前提の不確実性にあります。現在、燃油市況の変動幅が非常に大きく、慎重な見極めが必要と判断しました。
- ・ 燃油価格の上昇は業績の下押し要因ともなりえるため、第 2 四半期の動向を踏まえた上で市況前提を見直し、必要に応じて業績予想の修正を行う方針です。

Q5) 国内有識者会議の結果を踏まえた、今後の国内旅客事業のロードマップを教えてください。

- A5) ・ 足元では、ダイヤの調整を検討しています。便数や機材の大きさは維持したまま、新幹線に対して需要シェアが劣後している路線を中心にダイヤの最適化を進めており、準備が整い次第公表いたします。
- ・ 有識者会議で提示されたその他の項目については現在精査中ですが、地域の移動を支える交通インフラの維持という観点から状況を見極めつつ、慎重に検討を進めてまいります

以上